



奥の院では観音像を一同に参拝することができる

Oshu Heritage

奥州遺産

No. 28

〜ときを越え
受け継がれるもの〜

中善観音

江刺区岩谷堂字小名丸

えさし藤原の郷隣、えさし郷土文化館「奥の院」に収蔵される「中善観音」。「西国三十三観音像」「坂東三十三観音像」「秩父三十四観音像」に「聖観音像」を加えた101体の観音菩薩像で構成される。戦後間もなく「中善観音」と命名され、平成12年には市の有形文化財として指定を受けた。

観音像は1711年から1773年にかけて、気仙の鈴木家によって京仏師が造像したものである。明治45年、その文化的価値を認めていた旧岩谷堂町の商家「中善」の当主、小原善次郎氏に委ねられた。小原家は、傷んでいた像の修復を数度にわたり仏師に依頼し、収蔵するためのレンガ造りの蔵（現・菊田一夫記念館）を建立し、観音像を大事に保管してきた。

多くの人に親しまれ、眩い光を放つ漆箔の観音像。江戸時代に隆盛した仏教文化の歴史を、今もなお伝え続ける。

広告



※この広報紙は再生紙と植物油を使用しています。
※この広報紙は奥州市のホームページでもご覧いただけます。【本紙1部の印刷費用は約28円です。】